佐賀県公立高校入試徹底分析【理科】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	50点
問題構成	大問は5つ，各大問10点×5で50点満点。生物・地学・化学・物理からバランスよく出題されている。問題量は14ページ分で，ここ数年大きな変化はない。出題範囲について，大問1で中2の全分野、大問2は中3物理、大問3は中1化学、大問4は中3生物、大問5は中1地学が出題されている。		

	令和8年度(2026)	令和7年度(2025)	令和6年度(2024)	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)
問題量 (A4で)	14ページ分	14ページ分	14ページ分	13ページ分	14ページ分
小問数	42問	42問	41問	41問	41問
論述問題の数	0問	1問	1問	3問	1問
論述問題配点	0点	2点	1点	6点	1点
受験者平均点	29.3点	28.5点	27.8点	25.1点	27.9点

【出題の傾向と対策】

1　基本用語は必ず出題されるので、配点は少ないがしっかり全て正答したい！

R8

1(1)　硫化鉄のように２種類以上の元素からできている物質を何というか、書きなさい。

3(1)　物質の状態（個体、液体、気体）が変わることを何というか、書きなさい。

5(2)　サンゴの化石のように、地層が堆積した当時の環境を示す化石を何というか、書きなさい。

基本用語について、今回は6問出題されている。配点は全て1点で合計6点と多くはないが、毎年基本用語を答えさせる問題は出題されるので、しっかり全問正答しておきたい。

2　化学式・化学反応式・イオンをあらわす化学式を書かせる問題は必ず出題される！

R7　4

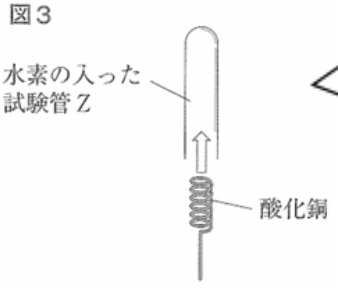
2(3)【実験３】の②で起こった酸化銅と水素の反応を、化学反応式で書きなさい。

【実験３】

①　銅線をガスバーナーで十分に加熱すると、表面が黒色の酸化銅に変化した。

②　図３のように、①でできた黒色の酸化銅を水素の入った試験管Ｚの中に入れたところ、表面の色が黒色から赤色に変化し、試験管Ｚの中に水滴が生じた。

図３

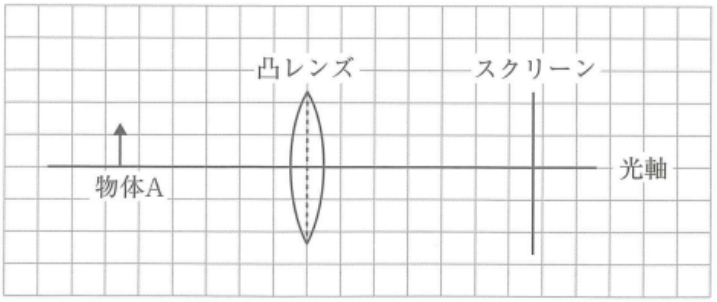


H29～R8までの10年間でH30以外は出題されている。出題されやすい問題は決まっているので、確実に正答しておきたい！

3　作図問題は入試頻出パターンが出るので，作図についても対策ししっかり正答したい！

R5　1

2(1)　凸レンズの左側に物体Aをおき、凸レンズの右側に置いたスクリーンを動かすと、
図 の位置のときスクリーン上にはっきりとした像ができた。
この凸レンズの2つの焦点を作図により求め、点（●）で示しなさい。ただし、
作図の線は消さずに残しておくこと。



作図について、
R8は電流・電圧のグラフと分力の作図
R7は浮力のグラフ
R6は温帯低気圧と回路図
R5は光と柱状図
R4はフックの法則のグラフ
と毎年出題されている。

4　計算問題は，基本問題がほとんどなので，基本公式や考え方をしっかり身につけ，図や表　を正確に読み取り，確実に正答する力が必要である！

R4　3

図1

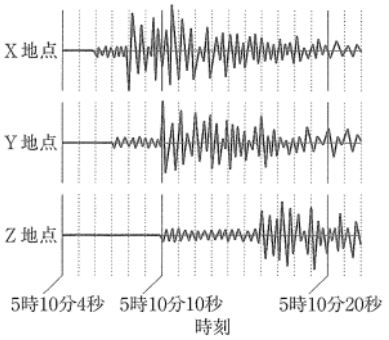
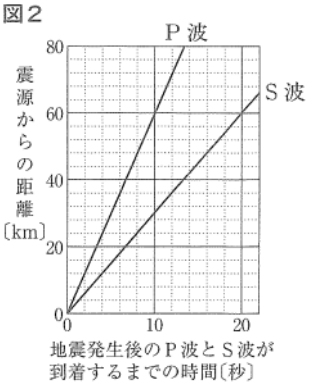


図2



地震発生後のP波とS波が到着するまでの時間〔秒〕

3　（2）Y地点から震源までの距離は約何kmか、書きなさい。

計算問題は、
R8では、電流の計算と平均の速さ、仕事・仕事率、密度の計算
R7では、密度と酸化マグネシウムの質量
R6では，抵抗と熱量　　と毎年出題されている。

解答

R8 大問1　1(1)化合物

大問3　1(1)状態変化

大問5　1(2)示相化石

R7 大問4　2(3)**$CuO + H_2 \rightarrow Cu + H_2O$**

R5 大問1　2(1)右図参照

R4 大問3　3(2)約**18** km

